



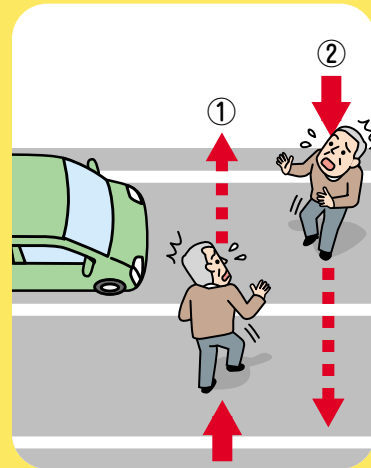
Q1 平成23年の交通事故件数を昼夜別にみた場合、夜間の死亡事故率（交通事故全体に占める死亡事故の割合）は昼間の何倍でしょう？

- ①約1.5倍 ②約2倍 ③約2.5倍 ④約3倍

Q2 クルマが直進中に横断中の歩行者と衝突して起きた死亡事故件数を進行方向別にみると、昼間は自動車から見て「右から左への横断」と「左から右への横断」の割合はほぼ同等です。しかし、夜間はどちらかの方向が約70%になります。それは、どちらの方向でしょう？

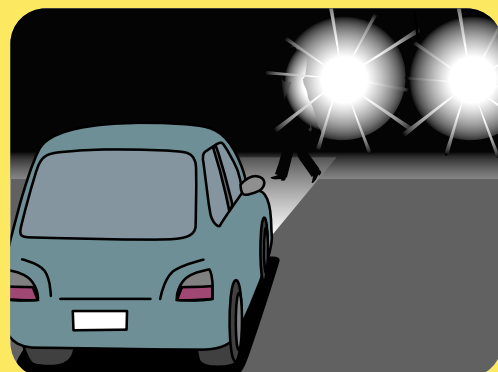
クルマから見て

- ①右から左への横断
②左から右への横断



Q3 対向車と自転車のライトの光が交差する道路中央付近にいる歩行者や自転車の姿が見えにくくなることがあります。これを何というでしょう？

- ①眩惑
②蒸発現象
③明順応



【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736

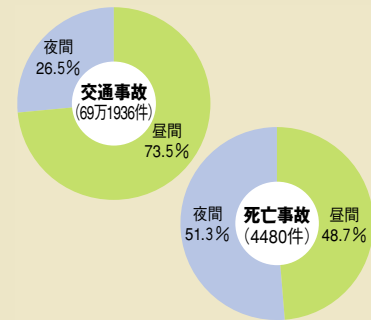


Q1 解答 ④約3倍

<解説>

平成23年の交通事故件数を昼夜別にみると、夜間は、交通事故全体に占める割合が約4分の1（構成率26.5%）であるのに対して、死亡事故では約半数（同51.3%）を占めており、死亡事故率（交通事故全体に占める死亡事故の割合）は昼間の0.43%に対して2.9倍の1.25%となっている。夜間は危険の発見の遅れなどが原因で、死亡事故などの重大事故につながりやすいことから、特に街灯もなく、暗くて前方が把握しにくい状況では、ドライバー・ライダーはヘッドライトのハイビームを使うなどして、周囲の安全確認をしっかりと行うことが重要である。さらに、速度を控え、十分に注意して運転する必要がある。

●平成23年の昼夜別交通事故件数 ※警察庁資料

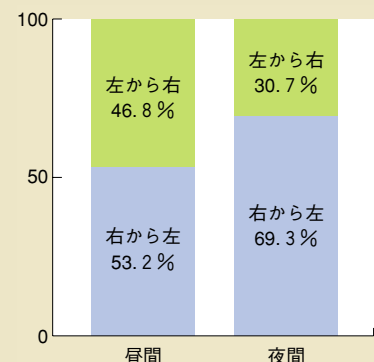


Q2 解答 ①右から左への横断

<解説>

自動車が直進中に歩行者と横断中に衝突して起きた死亡事故（912件・平成21年）を進行方向別にみると、昼間は自動車から見て「右から左への横断」と「左から右への横断」の割合はほぼ同等である。しかし、夜間は「右から左への横断」の割合が多くなり、全体の約70%を占めている。ドライバー・ライダーは自分の右から左へ横断してくる歩行者と衝突する事故が夜間に多発していることを十分認識し、走行中は常に視野を広く保ち、横断歩道以外であっても左右から横断してくる歩行者がいらないか、安全確認を行うことが重要である。特に道路の右方向から横断してくる歩行者の発見に努めるようにしましょう。また、夜間は状況によってヘッドライトのハイビームを上手に使い、横断する歩行者を早めに発見することが事故防止につながる。

●自動車直進時の歩行者の横断方向



出典：イタルダ・インフォメーション No.83

Q3 解答 ②蒸発現象

<解説>

夜間、クルマ同士がすれ違う際に、自分のクルマと対向車とのヘッドライトの光が重なる場所に歩行者などがいた場合、ドライバーからその歩行者が見えにくくなる（蒸発したかのように突然、消えて見えなくなる）現象を「蒸発現象」という。このような状況では、歩行者は両方のクルマから照らされているので、「ドライバーは自分の存在を確認している」と思い込んで行動するため、危険性はなおさら高まることが考えられる。夜間はこのような特性があることを頭に入れ、速度を控えて、周囲の安全確認をしっかりと行うなど慎重な運転を心がける必要がある。

【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736

